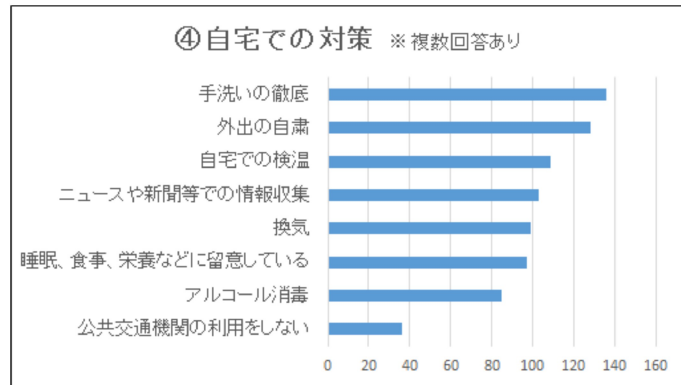
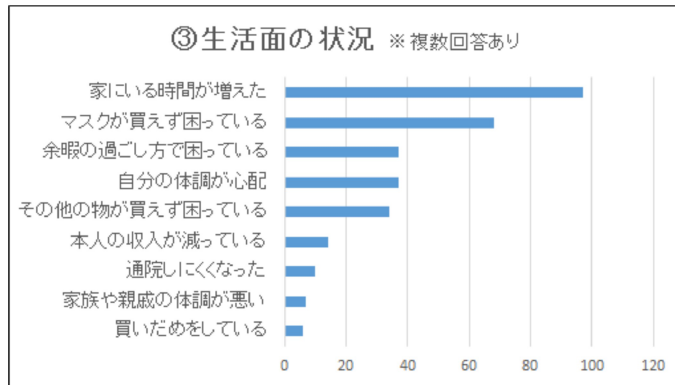
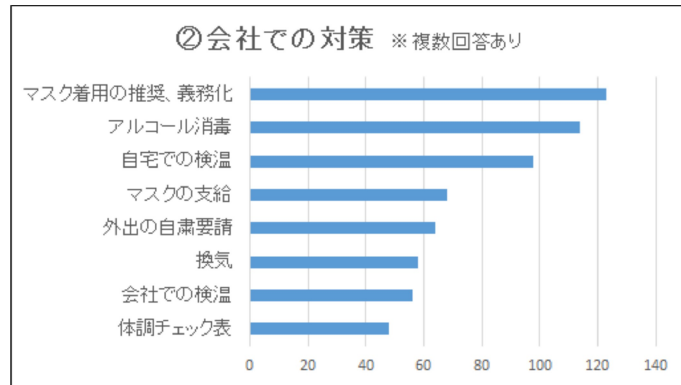
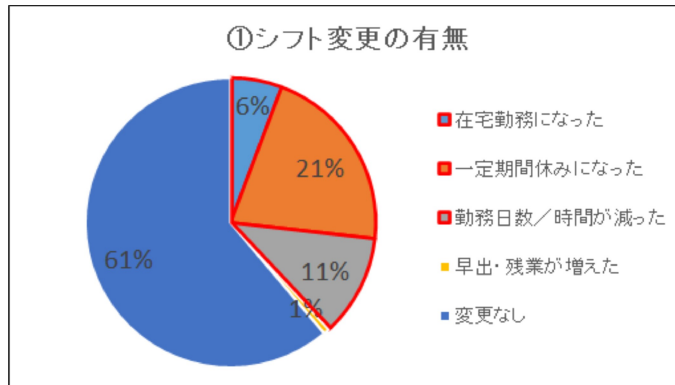


コロナウイルスに係る
状況確認

アンケート 結果報告

4月に就労者親の会（前年度のふれあい会会員）向けにアンケートを実施し、仕事面や生活面について聞き取りをさせていただきました。回答率は88.7%（157/177名）で、多くの方からご返信をいただきました。ありがとうございます。以下にその集計結果を掲載します。

- Check① シフト変更では、27%の人が一定期間会社に行かない時期を経験。日数や時間減の割合を足すと、38%の人がこれまでの勤務スタイルとの変更を余儀なくされました。
- Check② 会社ではマスク着用はほぼ全員回答でしたが、会社によって対応はまちまちでした。
- Check③ 生活面では「家にいる時間が増えた」という回答が最も多かったですが、反面「余暇の過ごし方で困っている」という回答数は予想を下回りました。在宅期間の長期化、あるいは仕事があっても外出自粛が続くと回答数が増えるかもしれません。
- Check④ 自宅では皆さん何かしらの対応をされており、複数回答も多くいただきました。



少しでも早く利用者の方や保護者の方々に認めていただければと思います。大学はスポーツ関係を専攻していたので、作業の場面以外でも携われたらと思います。
(自立訓練：井上将吾)



利用者のニーズを常に意識し、一人ひとりにとっての成長とは何かを日々考えながら利用者と共に成長できたらと考えています。自分なりの関わり方、求められる支援の在り方を少しずつ見つけていきたいです。
(就労継続B型：小野万都花)



利用者一人ひとりの思いを受け止め、思いに寄り添った支援をしていけるよう努めて参ります。利用者の方々が安心して長く働くことができるよう尽力していきたいです。
(就労移行：小菅仁奈)

新職員 紹介



編集後記

「新しい生活様式」の捉え方。この騒動がなくても、共生社会を造る一員として、人と気持ちの良い距離感を保って生きる上で大切です。だからこれからも意識し続けましょう。また、私たちの行ないに「不要」はなくても「不急」はあることをきちんと知りましょう。「急か否か」その判断を間違えないように。(S.A)

【感染予防あひる：園内各所に出発中！】

あかねの集い

第171号
令和 2年 6月 1日
発行者
社会福祉法人あひるの会 あかね園
〒275-0024
千葉県習志野市西浜3-4-5
TEL 047-452-2715
http://www.akaneen.com/

コロナ渦中から、私たちは何に「気づき」何を「学ぶ」のか

施設長 松尾 公平

コロナ渦中においては我慢や不安等、マイナス面とばかり向き合う日々ですが、この期間を「大変な時期だった」や「一連の騒動」だけで済ませてしまうのではなく、今回の事態から私たちは多くの「気づき」や「学び」を獲得し、「これから」に活かしていかなければなりません。今号ではあかね園がこの数か月のコロナ騒動を通して感じたことをお伝えします。

知的障がいの方が利用する多くの施設では、「マスクを外してしまう」、「変化への対応が難しい」等、様々な理由から感染防止対策の難しさが聞かれておりますが、これは単に「障がいの程度」だけが理由なのでしょうか。

地域での生活や職場では、自分の思い通りにいかない事や、納得できないことも少なくありません。

園では障がいの有無や程度に関わらず、自身の力を最大限発揮し（引き出し）ながら、「（地域や企業等での）決められたルールを守る」「人に迷惑をかけない」ことを支援の基本とし、利用者は日頃の作業や生活での「譲る」「合わせる」「協力する」等の多くの場面を通して経験を重ねてきました。たとえ説明や文字の理解が難しい方でも、職員の動きや周囲の動き、全体の雰囲気の違いを感じ自ら周囲の変化に柔軟に合わせる姿勢があかね園の日常にはあります。

こうした一人ひとりの意識や姿勢が園全体に拡がり、結果100%のマスク着用率、車内や昼食時の会話の自粛や日課、座席の変更、余暇活動の中止等々…突如として出現した多くの“コロナルール”を受け入れ、「新たな日常」に適応しているのです。



一方で「これからの課題」にも気づかされました。在園生や企業就労者の多くが活動の自粛を余儀なくされる中、在宅時間が大幅に増えている家庭からは多数の“困りごと”があかね園に寄せられることを想定していました。しかし、実際に聞こえてきた多くの声は「特に困っていません…」。家では「何もしていない」「寝てばかり」「ゲーム漬け」等の実態を「当たり前」や「いつも通り」「本人が良いと言っているから」と周囲が疑問なく受け止めているのであれば、これこそが“非常に困った事”なのではないでしょうか。

余暇は「社会参加」「自己実現」と密接に関係しています。身体的な休息だけでなく、余暇活動を通して自身の「生きがい」や「働く意欲」等の活力を得て、また、その活動の中心を自宅だけでなく“地域”に据えることで、「あこがれ」や「興味の拡がり」、「（自分の事を）知ってもらう機会」となり、ひいては「自身の成長」や「地域での暮らしやすさ」にもつながっているのです。

ストレスを溜め、我慢に我慢を重ねている姿こそが本来あるべき“健全”な姿なのかもしれません。

緊急事態宣言の自粛生活を通し、改めて本人達の有する潜在的な「力」の大きさやたくましさを感じる一方、眼前の課題を“一時的なもの”として受け止めるのではなく、“一生涯のこと”として受け止め、緊急事態宣言解除後の「新しい生活様式」のもと、新たな取り組みやこれらに向けての準備を始めるきっかけに繋がれるのなら、このコロナ騒動から得るものも少なくはないのでは。



関係機関が集まった初のネット会議。コロナによるITの促進で福祉の業界も「支援」や「連携」のかたちが変わっていきます。

報告

新型コロナウイルス感染拡大に伴うあかね園の動き

昨年末から年始にかけて騒がれ始めた新型コロナウイルス。あかね園への影響も大きく、設立34年にして経験したことのない判断・対応が求められました。まだまだ終息の気配が見えない中、年齢や住まい、立場、性別や障がいの有無という枠を吹き飛ばし、誰もが「我が事」として当事者意識を持って生活せざるを得ない社会が今後も続きそうです。園として具体的な対応を始めて3ヵ月。園を利用された方、自宅待機の方、就労中の卒園生、そしてそのご家族を含め、様々なご苦労があった（ある）と思います。

本号では、2月から5月にあかね園からご家庭に発信した第1報から第7報を軸に、時系列に沿ってご報告させていただきます。今後の想定についてもお伝えしたいと思います。

あかね園より 第1報 発信

2/21 感染症に関する報道の増加を受けて

「感染しないため」の予防と「感染を広めない」予防を強化

- 3月末までのイベント中止を決定（余暇サークル、ふれあい会、一日外出、地域生活講座）
- 園内の感染症対策を強化
 - ①アルコール消毒液を玄関や食堂等に設置
 - ②手洗い、うがい、マスク着用の励行
 - ③体調不良が疑われる方への検温や早退等の早期対応
 - ④館内清掃の強化とドアノブ等の定期消毒

家庭へのお知らせ①

- 家を出る前の検温のお願い
- 家からのマスク着用の励行
- 登園時間をずらしたい方へ送迎体制の相談



【玄関に消毒液を設置】

あかね園より 第2報 発信

2/28 近隣地域の患者発生を受けて

利用者や家族が感染者・濃厚接触者になった場合の対処について説明

「感染者」
→治癒までの間、利用をご控えいただく
「濃厚接触者」
→症状がなくても、2週間は自宅待機していただく

- 園内の感染症対策を強化（追加）
- ⑤送迎車への乗車前の手指のアルコール消毒、及び下車後の車内消毒

家庭へのお知らせ②

- 検温表を配布し、登園前の体温を日々記録
- 家庭（グループホーム）のサインを貰い毎朝園に提出いただく



【バスに乗る前に手指を消毒】



【登園したら検温表を提出】

あかね園より 第3報 発信

4/1 県内他施設の集団感染報道を受けて

新年度にあたり改めて全体で情報を共有

- 園内の感染症対策を強化（追加）
- ⑥職員の不急な訪問支援や外部会議、研修等への参加を自粛
- ⑦厨房職員は出勤前の検温に加え業務開始直前にも検温を含む体調確認を実施
- ⑧送迎車の過乗車を避けるための増便と運行中の常時換気
- ⑨事業毎に昼休みの時間をずらし混雑を緩和、隣とも一席空けて座る

家庭へのお知らせ③

- 検温表チェックの依頼（再）
- 平熱の再確認を促し
- 帰宅後や休日の「3密」回避のお願い



【送迎車は一席空けて】



【来園者には来訪日時や体調を記録】

あかね園より 第4報 発信

4/7 緊急事態宣言の発令を受けて

「ウイルスを持ち込まない意識」の再確認

「緊急事態宣言」と厚生労働省からの「通知」

この日に発令された緊急事態宣言を受け、同日厚生労働省より福祉サービス事業所の対応に関する通知が発出。→「利用者の状況や家族の状況を踏まえ、（中略）支援が必要な利用者に対する支援が提供されるようにすること」

家庭へのお知らせ④

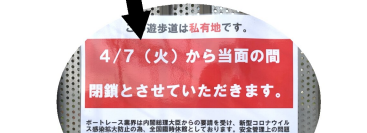
- 自転車送迎や時間帯をずらしたの登園も可
- 公共交通機関利用の注意点
- 検温表は休日も記録する



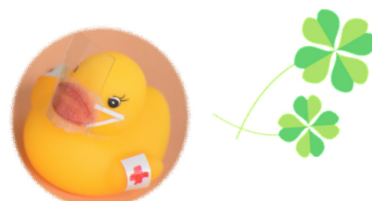
【国から届いたマスクの配布準備】



【ポートピア習志野の一時休業に伴い】



【新習志野駅からあかね園に向かう遊歩道が通り抜け不可に】



あかね園より 第5報 発信

4/8 前日の「宣言」と「通知」を受けて

あかね園「縮小開所」（4月13日～5月6日）に向けた意向調査を実施

- ☆自宅待機となる利用者への発信
- ・この期間の意味合いの説明と助言（外出の自粛、生活リズムの維持、家のことをする、自分の時間を上手に使う等）
- ・在宅報告（毎日電話で体調確認と状況共有を行なう）
- ・再開に向けた準備：健康観察表と在宅日誌の記入（健康状態の記録と良い生活習慣の維持）

家庭へのお知らせ⑤

- 主に自宅待機の難しい方を受け入れ
- ・現時点での意向であり随時変更は可



【園内外、どの作業現場も限られた人員に】



【昼食は時間分散&同じ方を向いて】



【職員の会議も最少人数&時間、同じ方向に座って】

あかね園より 第6報 発信

4/24 5/7以降の「宣言」延長を想定して

「縮小開所」延長を見据えた意向調査を実施

福祉サービスに求められているのは…

「利用者や家族の生活を継続する上では欠かせないものとして適切な感染防止対策を講じた上で継続開所すること」

※この時点では約6割の方が在宅（代替サービスを利用）

家庭へのお知らせ⑥

5/7以降、宣言が解除・延長双方の場合の登園に関する意向を聞き取り（随時変更可）



【「ソーシャルディスタンス」を知る】



【廊下（休憩スペース）もレイアウト変更】



【外作業班も会社の指示に従い「3密」回避の環境設定】

5/18

活動の順次再開へ向けて

5月25日からの「安心・安全」を提供するためのさらなる感染防止対策の取り組み

- ⑩時差登園（送迎車8:20、9:05の従来便に加え10:00便を運行）
→通勤ラッシュ回避、車内混雑緩和
- ⑪更衣室の混雑緩和（時差登園+更衣室の増設）
- ⑫作業環境への配慮（定期的な換気、間隔を空けた作業配置、報告等の最低限の実施）
- ⑬昼食時間の分散延長（少人数での食堂利用、同じ方向での着席）

家庭へのお知らせ⑦

利用を自粛されていた方へ常時利用再開のお申出を受け
※前日までのご連絡をお願いいたします



【園内各所の定期消毒の箇所数と頻度を増加】



【園（送迎）車両の内外も】



【園庭でカレー：自粛の中ひと時のリフレッシュ企画】